

# 全国学力・学習状況調査の結果について

## 調査の概要

5年度全国学力・学習状況調査は、全国の小学6年生と中学3年生を対象に、4月18日に実施されました。今年度の学力調査は、国語・算数(数学)・英語(中学校のみ)で行われました。また、学習状況調査は、学習意欲、学校環境、生活習慣などについて、アンケート形式で行われました。

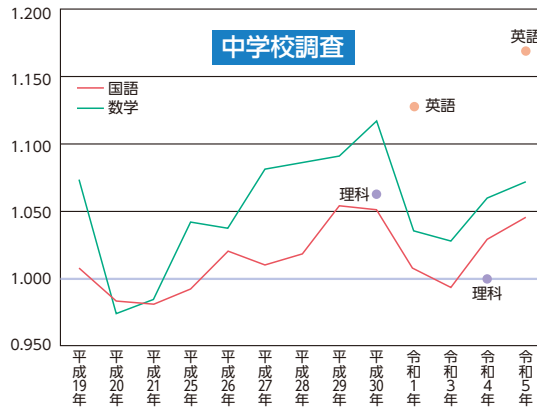
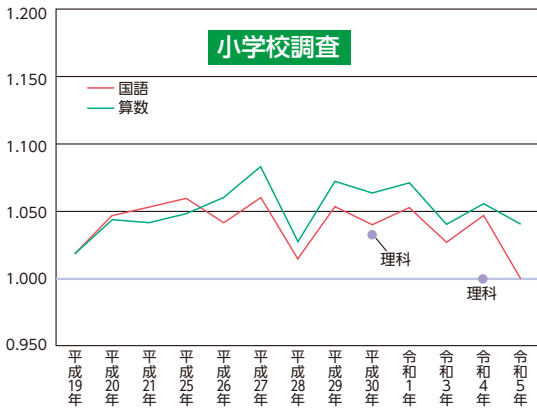
※調査結果についての詳細は、ホームページに掲載しています。

※本調査結果は、子どもたちの学力や学習状況、生活状況の一部を示すものであり、全てを表すものではありません。

## 本市の小学生的状況

### ●国語

平均正答率は67・5%(全国:67・2%)で、全国平均を若干上回っていますが、経年変化をみると課題がみられ、改善が急務となっています。これまで課題として挙げられていた「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域については、平均正答率



は72・0%(全国:67・5%)と改善傾向です。今後も、漢字や文法など、言語能力の土台となる力の育成に励んでいきます。

一方で、今回、記述式の設問が3問出題されていましたが、全ての設問において全国の正答率を下回る結果でした。また、無解答率についても、3問とも全国を上回っており、課題がみられました。どの設問にも共通することは、「複数の情報を活用し、考えを論理的にまとめる力」が求められていたということです。

本市は、一つの課題に対してじっくりと向き合い、自分の考えを深めていくといった授業の研究は進んでいますが、複数の資料から情報を収集し、整理・分析しながら自分の考えを構築するといった授業の進め方の研究が進んでいないと推察されます。今後は、複数の情報を整理して考えをまとめる学習活動を、国語科に限らず、さまざまな教科で取り入れるなど、授業の改善を図っていきます。

また、無解答率も高かったことから、複数の資料の内容を捉えることが難しかった児童もいたと考えられます。抵抗感なく、資料の内容を把握するためには、普段から活字に触れる機会を増やす必要があります。指導に当たっては、学校図書館や

市立図書館を効果的に活用した授業づくりの推進や、読書に親しむことのできる学習環境を整えるなど、活字に触れる機会を増やす取り組みの充実を図っていきます。

### ●算数

平均正答率は65・3%(全国:62・5%)で、全国を上回る結果でした。また、全ての領域において、全国平均を上回っており良好な結果でした。ただし、全国と同様ではありませんが、「テープを直線で切つてできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く問題」の正答率が18・3%(全国:20・8%)と低く、課題がみられました。

上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- ㊸の面積のほうが大きい。
- ㊹の面積のほうが大きい。
- ㊸と㊹の面積は等しい。
- ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

択一の後、根拠を記述する問題ですが、択一の時点でおよそ3分の2の児童が正しい回答を選べておらず、斜辺を高さと同様にしている児童が一定数いると考えられます。

指導に当たっては、児童が形式的な処理だけによらない理解を進められるよう、情報過多の問題設定を用い、必要な長さを選び出させる学習や必要な長さを測定させるといった指導の改善を図っていきます。

### 【児童質問紙】

「自分には、よいところがあると思いますか」に対し、否定的に回答した児童の割合は16・2%で、改善傾向にあります。「先生は、あなたのように自分を認めてくれていると思いますか」に対し、91・0%の児童が肯定的に回答しており、児童の個性を大切にしたり関わりができていたり考えられます。今後も、個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活を送ることができるよう風土をつくるとともに、児童一人一人が活躍することのできるよう、多様な場の設定を図り、個性が輝く魅力ある学校づくりに取り組んでいきます。

## 本市の中学生の状況

### ●国語

平均正答率は72・6%（全国：69・

8%）で、全国を上回る結果でした。領域別にみても、「話すこと・聞くこと」の領域のみ全国平均を若干下回っていましたが、おおむね良好な結果でした。今後も、話す・聞く・書く・読むのそれぞれの活動を、バランスよく授業の中に取り入れ、言語能力の育成に励んでいきます。

### ●数学

平均正答率は54・9%（全国：51・0%）で、全国を上回る結果でした。ただし、「データの活用」の領域のみ全国平均を下回る結果でした。

設問別にみると、「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題の正答率が28・5%（全国：33・6%）と低い結果でした。無解答率も24・3%（全国：22・8%）と非常に高く、課題がみられました。

解答類型をみると、箱ひげ図のどこに注目してデータを分析すればよいか理解できていない生徒が多数いると考えられ、本設問のように、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明するといった経験が不足していると推察されます。

指導に当たっては、日常生活や社会の事象などを題材とした問題など

を取り上げ、統計的に問題解決するといった活動の充実を図る必要があります。問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して分析し、傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を充実させ、統計的な問題発見・解決の過程のよさに気づくことができます。よう指導改善を図っていきます。

### ●英語

平均正答率は53・1%で、全国平均を大きく上回る結果でした。設問別にみても、17問全ての問題において、全国の正答率を上回っており、良好な結果でした。小学校における英語専科教員の配置や、教育特別校制度による小学校低学年からの「英語活動」など、本市では早い段階から英語に慣れ親しむための取り組みを推進しており、その成果が表れていると考えられます。今後も、9年間を見通した英語教育の充実を図っていきます。

### 【生徒質問紙】

学習面では、「1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目において、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答している割合が

全国よりも高く、「週1回以上」を加えると96・7%が使用していると回答しています。昨年度よりもICT機器の使用頻度が高く、授業におけるタブレット活用が全国比較において進んでいる状況にあります。GIGAスクール構想において、1人1台タブレット端末の活用率という観点から一定の成果がみられました。

生活面では、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目において、肯定的に回答した生徒の割合が61・8%（全国：66・4%）と低い結果でした。学校で安心して過ごすことができている生徒がいると推察されます。学校が、誰にとっても安心して過ごせる場所となるためには、教職員が、日頃からアンテナを高く保ち、生徒の小さな変化やSOS信号を察知することが肝要です。また、日常的なあいさつや声かけ、励ましや称賛など、温かい関わりを積み重ねることが、生徒との信頼関係の構築につながるとともに生徒の成長の支えになると考えられます。生徒にとって、学校が安心・安全な居場所となるよう、今後も生徒が悩みなどを相談しやすい環境づくりに努めていきます。

# 池田に集え

# 社会人落語日本一決定戦

15回目を迎える同大会が今年も開催されます。

全国324人の頂点をめざして、ここ池田で繰り広げられる<sup>はなし</sup>噺の応酬。  
ぜひお楽しみください。



## 予選会

事前審査を通過した150人が6つの会場で落語を披露。

**時**12月9日(土)午前11時(午前10時30分開場) **場**落語みゅーじあむ、中央公民館、池田駅前南会館、市役所7階大会議室、市民活動交流センター、西光寺

## 決勝戦

予選会を勝ち進んだ10人が市民文化会館の舞台上で競います。

**時**12月10日(日)午前11時(午前10時30分開場) **場**市民文化会館

### 審査員

桂文枝(大会総括)、桂小文枝(落語家)、  
成瀬國晴(イラストレーター)、日高美恵(よせびっ編集者)

※入場整理券は配布を終了しました。

**問** 社会人落語日本一決定戦大会事務局 ☎753・4443

※その他詳細は、広報いけだ11月号7ページまたは、  
同大会ホームページをご覧ください。

